



第一学院 惜敗

サッカー

関東高校大会

サッカー男子の関東高校大会は23日、鹿嶋市高

松緑地多目的球技場などで開幕した。第1日はA、B組の1回戦と準決勝が行われ、B組の東洋大牛一学院は1回戦で前橋育

英(群馬)に0-1で競り負けた。最終日は24日、鹿嶋ハイツでA、B組の決勝が行われ、B組の東洋大牛一は中央学院(千葉)と対戦する。

第一学院・高橋秀弥監督(59)「こぼれ球や切り

替えの速さなど持ち味を出せた。互角だったからこそ、前半のうちに点を取ったかった。

△得点者【前】松下(後21分)
△得点者【東】中泉(後21分)中島(後36分)【富】富田(後47分)
△準決勝
東洋大牛久20-11 健大高崎
2-0 (群馬)
△得点者【東】中島(後16分)高橋(後40分)【健】大内(前2分)

＜A組1回戦＞前橋育英一第一学院 前半、相手と競り合う第一学院の大淵(中央)＝鹿島ハイツ



好守も逸機響く

焦点

決定力の差が勝敗を分けた。第一学院は好機での枠外やGK正面のシュートが続き、強豪・前橋育英に競り負けた。好守で接戦に持ち込んだだけに、逸機が痛かった。

序盤からFW陣がプレスをかけ、相手を自由にさせなかった。中盤や最終ラインも前線の奮闘に比べ、素早く体を寄せてボールを奪った。ゴール前に運ばれても、センタ

ーバックの森島岬(3年)を中心に体を投げ出してシュートブロック。「集中していた」(森島)と、持ち前の泥くささで耐えた。

堅守が功を奏し、前半終盤に好機が訪れた。左サイドからのクロスのかぼれ球に、背番号10番の田中智基(2年)が反応し右足を振った。しかし「ミートしなかった」と、決め切れなかった。

後半から最前線に投入された186cmのDF神戸玲瑠(3年)が空中戦の起点となり、競り合

後のこぼれ球を回収しながら好機をつくった。失点後は攻勢をさらに強めたが、ゴールが遠かった。終了間際に田中が振り抜いたシュートはGKにはじかれ、続くCKに田中が頭で合わせたボールもGKに阻まれた。悔しい惜敗となった。

「チームに迷惑かけた。決めていれば状況が変わっていた」と田中。6月に控えるインターハイ予選の初戦に向け、「短期間だが決定力を上げて勝ちたい」と気持ちを切り替えた。(高田尚輝)